

一經
經
經
經
經
經
八

^ 13
3331
18



了
六

大正十年八月廿九
本大学出版部

觸渡あふに大津おほつの領主山科左衛門尉三井寺法師さんせいじほうしがくつひ瀬田
乃手のて成固なるこを々々然しか小判官せうばんくわんの宿しゆくりもふ亭主ていしゆ大津おほつの次郎じちぢやうが妻つまと
貪欲こんよく非道ひどうの愚婦ぐふも。竊ひそ小判官せうばんくわん主従しゆくじゆ乃の躰たゝみ成なる窺うかがひ獨ひとり咲さ。次郎じちぢやう
飯宅いひたく成待なるまち耳語みみご々々御苗主ごえんしゆ中なかつ小客僧せうかくそう十四五人じゆしごにん成止宿なるしゆくり借
其その為ため躰たゝみををんぬ衣紋えもん乃の摸も様やう人ひと品骨柄しんこつがら九庸くゆう乃の人ひとな多おほむ。如何いかう様
彼かをを渠判官きはんくわん主従しゆくじゆゆや在あらぬ御身ごみの親類おんりゆう妻つまが兄弟けいあつ亦また成呼なるこ聚
卧ふし寐み仕し菟う射しやりり六波羅殿ろくはらでん差出さしださむ。莫な大おほ御保ごほ賞しょう小
行ゆりり不ふ時とき乃の得え分ぶん成得なるえはは。早はやく人ひと々々成集なるあめめ人ひとと焦燥しやうそうり
次郎じちぢやう聞きくく臭くさ成なる覺かく。是こと女に小似せう存ぞん中なかつ條ぢやうりり假令か其その客僧きやくそう達たちが判
官くわん殿でん主しゆ従じゆなりりも恐おそ多おほも頭殿かぶでん乃の御公ごこう達たち鎌倉殿かまくらでん乃の弟あに君きみ小在せう在あす
者もの成我徒なるわがたががの賤しぜん成身なるみりり。ささ成行迹なるゆきせき乃の成なる辱はれれりり斯しかるる更さらの
新入しんにゅうりり却かへりり刑さだめめりり例れい往い古こりり度たりり近ちかと長田庄司ながたのしやうじ忠致ちゆうぢ

力の長田庄司

一三

六波羅の内意を得ず。情かくも義朝公成我し奉り却る其身の
不義成奉られ死刑小被行り。従来我身采錢小不足なり何
為小非道ろ賞金成望む辱れ亦假令討奉らむと云ふも鬼神
かも欺く判官殿小武藏伊勢あんどの壹人當千ろ人々扈從
く守護とれを究竟の武士三百騎五百騎向りとも者とも
り。増く况言甲斐かれ町人百姓二十人五十人寄られむと。何
程ろ更成りたり得ん。毛成吹く疵成求ふし八斯ろ更成りむ
亦真の客僧かろむ。金剛童子ろ冥慮も恐し唯惘小御食應し進せ
よし練々れ女悪さげなる負し嘲笑ひ扱も和殿と家刀自奴
僕ら甲斐くく一げ小撃も止もとれど。斯ろ際小と思ひ臆病なる
壁殿ろ好く寶の山小入るる手成空うせんり。領主の祈公
賞金ハ毒一人の有とせし其時小物欲負なりかせしとととと
謚小袖

取ろ抄掛門へ走出ふ小ぞ。次郎憤然とく大小怒り。風小靡く
菊萱男の順ふ婦こそ老中と云ふ辱れ小無道不義ろ言添くと悪
くれと。有合櫛ろ捧成追把く走出門前へ下と撃倒し。脛も折
よし抄擲くれ。女大小泣腹立大声上る。大津次郎こそ判官主從
隠時。人々領主へ訟てよし旬言くれども。元来近隣ろ者小も
く憎まら女たれむ。雜取まら者もなけれ。次郎も思程打擲
曳提く一回所小抄筆急死客僧の問ゆる亭へ行低頭し。愚妻小く
以者貪欲小眼暉ろ客僧連成判官殿御主從かりと僻目し。領主
小然しとや成幸し追止撃倒く一回小縛置はされも高声小旬
い。万一領主より征兵ろ参まらた小もい。勢田小多勢わく隊
し。間し。安く御通あらし様もい。所詮某が所持の小船小
百是夜ろ中。小海津の浦追御渡り。其御供仕り送奉らんと実意

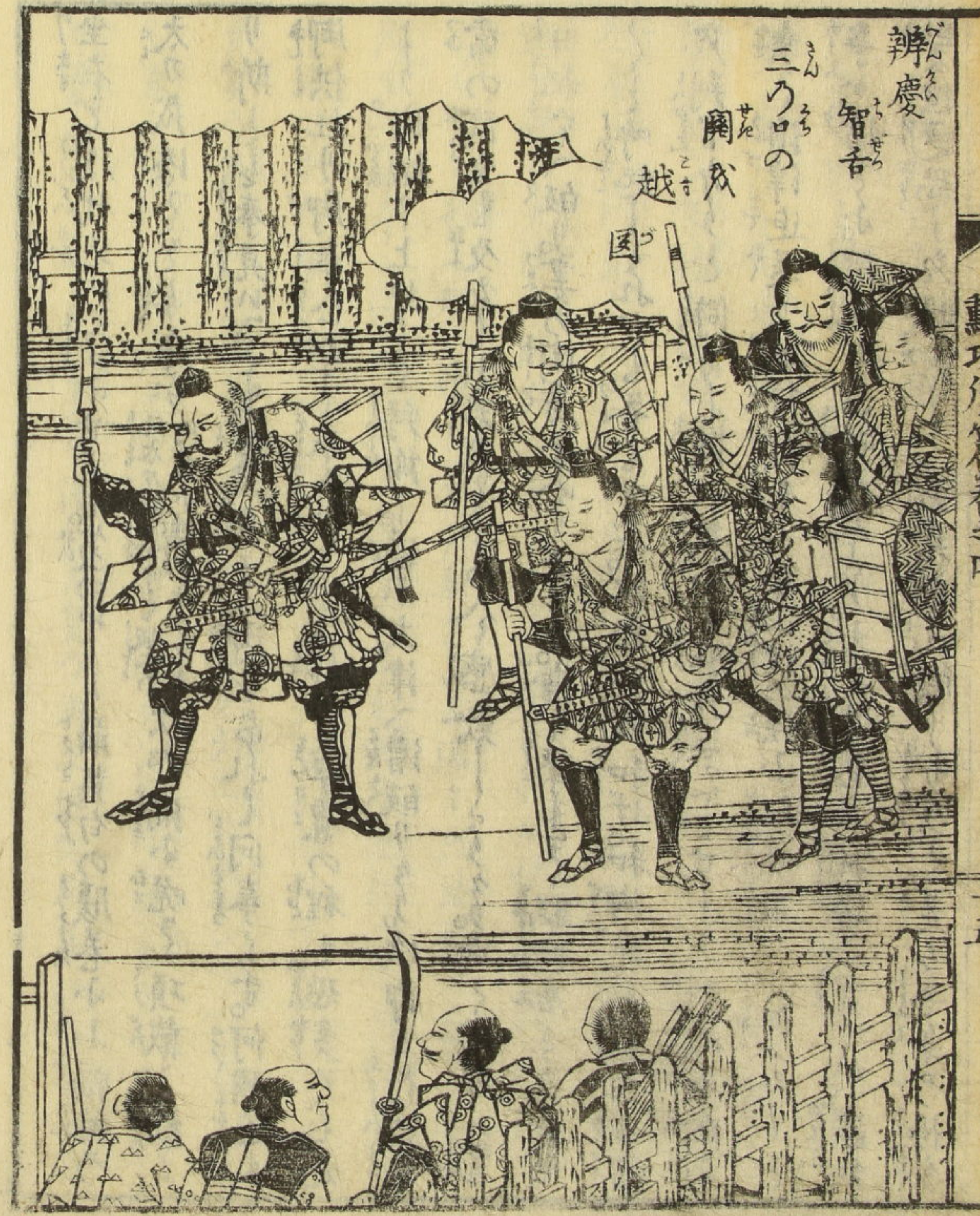
面小頭おもてきくやなれば。年とし度ど甚しと感かん心しん。我徒われと身み小こしりく覚さあ
ざれし路みちもぐも判官はんの質山しやま伏ふ小こかりく落おろふとくと変へハハヨリ。御
辺みの言ことれごとく連坐れんざの難がた小こ逢あく所ところ成なり強かし。日ひ數かず延のびくハ路みち次つぎの都みやこ合あひ
悪あし。主まろ厚情こうじやう小こ任ませ。船ふね成なり借か用ようく疾はや渡わたむやし。左ひだり右みぎ成なり顧かへハ列ら位ゐ
然しかるると同意どういしぬ。次つぎ郎らう承しょうリ甲斐かうくく船ふね成なり綱つなハ客僧きやくそう達たちと乗のり
進ませ頭あたまく大津おほつ乃の浦うら成なり押お出しくく折を折を順風じゆんぷう快かく吹ふれ帆か成なり曳ひ
上あぐ走まる程ほど小こ。船ふねの疾はや更さら箭や成なり射いつぐ。浦うら々々成なり弛ゆる過すく今津いまつの浦うら
成なりも後あと小こカ海津うみつ此こ浦うら小こを著つ小こ多たか。大津おほつ次つぎ郎らう人ひと成なり船ふねより下くだ
進ませ別わか成なり告つぐ漕そう飯いとと。年とし慶けい蜜みつ小こ判官はん小こ向むかハ渠みちと下くだ郎らうああく
貞まこと美みの者ものとんえいいハ御ご名な成なりも中ちゆう史し引ひ出だ物もの取とりりややく小こ鬼おに
も角かくをを仰あげれむ。辨慶へんけい次つぎ郎らう成なり近ちかく招また。汝なんぢ志こころの健けん氣きささく小こヤヤ史し
て。是こゝ小こくくせせああハ美みと清せい和わ天皇てんかう乃の御ご末すえ源げん廷てい尉ゑい義ぎ経けい公こう小こく御ご

ワワ坐ま在ざを。後ご代だい近ちかの守まもり小こせよし。笈あしの中ちゆうより前まへ黄わう白はくの腰こし卷まり小こ幅は輪りん乃の
太おほ刀た成なり添そくそ与あくく此こゝ太おほ刀た腰こし卷まり今いまも坂さかの
リ斯しとと奉見ほうけんいいハ世よ成なり忍しのぶ御身ごみあれを同どう奉ほうららす。何なん國こく近ちかも
御ご供きよう仕しり御ご奉ほう公こう乃の奉ほう度どいいハ却かへく尊そん慮りよの程ほども恐おそ多たいハ是こゝ
より御ご暇ひま上あいいとと拜はい謝しゃし。遂す小こ大津おほつ漕そう飯いリリ々々。次つぎ郎らう分ぶん行ぎやう迹せき尋じゆん
常じやうの武ぶ士しも及およぶと。君きみ成なりも人の感かん歎たんししりり。斯しく次つぎ郎らうハ三さん
日ひ私し宅たくへ飯いり。妻つまの国房くにふさ小こ入いくく痛いたく撃うちちく服ふく所ところ居ゐり。是こゝや
くくと呼よ起おししれれも各おのれもせむ。次つぎ郎らう釣つ成なり和わげ。和わ御ご前まへを真ま乃の客僧きやくそう
次判官つぎはんかりと僻ひ見みし。既すで小こ我われも耻はぢぢとせし。昨夜こゝろ船ふね小
乗のりく海津うみつ追お送くり船ふね賃ちん成なり乞こく山やま伏ふの法ほう小こ船ふね賃ちん取とり。例れいハハと
争あが憎にくむ。搜た取とり物もの成なり刀たよし。太おほ刀た腰こし卷まり成なり枕まくら遣やり置おき。藤ふじ乱らん
髪かみ搔か退たい恐おそく眼め色いろく。鬼おに見み角かく見み微すこく歩あひひ。是こゝと吾われ身み乃の得えく



勅力後高卷之四

十六



辨慶
智吉
三の口の
關
越

勅力後高卷之四

十五

追取筆て吟味成受よと圓より常陸坊年慶成々々。其小ハ大先
 達小ハハむ也。思より早く来うひさうよとつ小。年慶も何是と物
 絡も年慶小異むづた方なれ。一人の関守自余の者小耳緒多
 と山伏の信偽成知んと方々関代成結る思ひ昔より山伏の関代
 船賃出せし更なり。若判官主従を子細成あつと関代成出
 たりも早く通しととべしとつ小。衆同心一人の者年慶
 小向ひ。客僧達と真の行者と思えいむ。その吟味小も及まず。面
 く関代成出しと通りくとつ小。年慶色成改を昔より羽黒山
 伏の関代出しと通る例なり。法小な更ハ叶しとつ小。関守
 押返し。昔と不知此度判官脚吟味小就。鎌倉殿より脚教書と
 被下。甲家乙家の差別なく関銭成取。関守の兵雜の科小せよと
 仰いむ。羽黒山伏しと用捨ハ仕とつ小。年慶尚も頭成揮其方小

鎌倉殿の脚教書あれむ。當方小も天子の御墨附あり但し勅言
 成も反古小せよと書載らむ。や脚教書成見せしと居丈高小成
 争小。関守共扱と真つ山伏よと。とてくか。関門成用多。年慶
 仕濟しよりと心中小笑尚も疑成解し為二人三人に徐くと通せ
 其身と判官と二人後小残り。関守小向ひ近來無心カる更カ
 齊系成恵うとつ小。関守鑑か。白系成唐摺る蓋小入とどよ
 と年慶悦び関代御免の上小齊系成賜る段謝も小詞を
 一。やあ大和坊是納しと判官小渡し。つ報謝乃為祈禱仕らし
 と螺取上り高くと吹鳴し。角高珠數さうとつ小。押揉尊氣小祈り
 々々。仰願くと日本第一大龍権現熊野小。三所大権現。大峯小。八
 大金剛童子。吉野小。藏王権現。南京小。七堂大迦羅の緒佛。王城
 鎮護。稻荷祇園。加茂貴船。坂本小。山王二十一社。御多賀。白鬘大明

神加賀小と白山大権現其外日本大小の靈佛靈社彼判官主従
 成當三つ口の関所へ引侍敷賀井上兩士乃高名勳功小備へくと
 緒明王乃真言成称云大汗流しく祈々みか心中小と南無八幡大
 菩薩願く我君成無難小奥州すく赴しめくと祈々多と表れ
 関守等ハ頼母しく思ひ臆尊の太行者よと感嘆し関門乃外追送
 出れれ主従と綱成泣くみ奥乃しく勇悦先乃人々小弛付ひり

義経主従詣平泉寺條

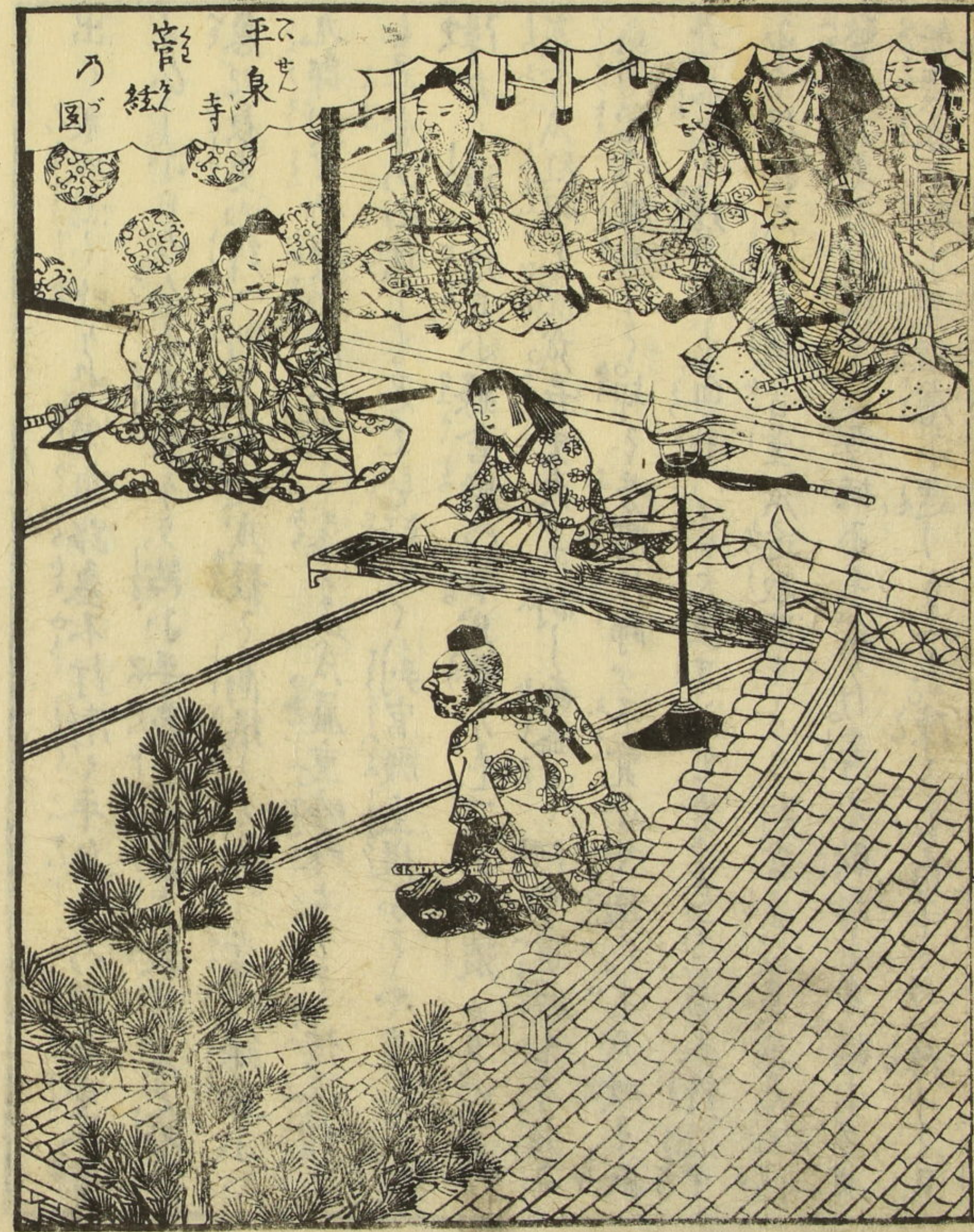
斯く判官主従と敷賀乃津小著羽刻へ通入船成需めくもいさど如
 月上旬かれ北風烈しくく纜成解船もたをれ陸路成往く越前の
 國府中小著多ひり判官衆人小向ひ武運長久の祈の為各小高
 九手泉寺小詣たやし仰々れ緒士亦如何と思しも御旋めれを
 止更成不得是より道成横功く平泉寺へと急し小雪雨嚴く降

出く寒風烈く吹くれ兎角路墓不行漸く平泉寺乃觀音堂小著
 りひり小日と全く昏果たり然小平泉寺の君大衆是成足智め
 急死長吏の絆へ到り衆徒成聚く南嶺く々るハ當時鎌倉小ハ
 九郎判官乃賈山伏小成く落り上成嚴重吟味有より彼客僧亦
 と尋常の山伏しも足えと疑り判官殿主従小くや有らん故
 障かへ通し後日小鎌倉殿乃替成受たを一山の難波さりいさや
 更香成烈明と関成長吏大の小制し無益く何の遺恨もたれ小
 無用僧乃腕立しく却く芳野法師が不覚小や傲し毛成吹く疵
 を求ると疎まじも血氣乃君大衆耳小も多のます二百人絆混甲
 少く得物成携へ觀音堂成追取囲くより判官主従是成乃く頃
 警一大吏と列位大刀乃柄小手成くけ寄を斬しと身構むる成
 矢度急小制し先短慮小送りもよ陳しらぬけ陳し見



効力後編卷之四

十一



平泉
管絃寺
乃
園

効力後編卷之四

十一

若^し不^た抗^がむ具^そ時^ど免^はれ角^つもか^しり^まし^と。船^{ふね}堂^{どう}内^{うち}より立^た出^でる衆^{しゆ}徒^と小^こ
向^{むか}ひ夜^よ中^{ちゆう}とい^ひ佛^{ぶつ}堂^{どう}の辺^へ、甲^か田^{でん}と著^{ちやく}し御^ご寄^ぎ有^ある何^{なに}夷^いのい^とと曰^い
衆^{しゆ}徒^と曰^い客^{きやく}僧^{そう}達^{たつ}乃^{すなは}鉢^{はつ}九^く郎^{らう}判^{はん}官^{くわん}殿^{でん}主^{しゆ}従^{じゆ}小^こ紛^まハ^ハレ^レれ^を如^{ごと}斯^し押^お倚^よ
いひぬ抑^{おさ}御^ご邊^へ達^{たつ}何^{なに}國^{こく}の山^{さん}伏^{ふく}達^{たつ}と拜^{はい}小^こ承^{じやう}ら^しと^と呼^より^まる。女^に
慶^{けい}安^{あん}と。扱^{さく}と判^{はん}官^{くわん}主^{しゆ}従^{じゆ}く^の御^ご疑^ぎ故^こと^と是^{こゝ}と羽^う州^{しゅう}羽^う黒^{くろ}山^{さん}大^{だい}黒^{くろ}堂^{どう}の
別^{べつ}當^{たう}荒^あ纒^ま岐^ぎと中^{ちゆう}先^{せん}立^たち^し決^{けつ}と^と胡^こ乱^{らん}の者^{もの}か^しと^とむ^むい^いと^と各^{かく}衆^{しゆ}
徒^と亦^{また}曰^い召^{めい}具^ぐ一^{いつ}人^{にん}の女^に年^{ねん}と何^{なに}人^{にん}の子^こ息^{そく}小^こく^のい^とと^と女^に慶^{けい}答^たる。坂^{さか}田^{でん}
の次^{つぎ}郎^{らう}殿^{でん}乃^{すなは}子^こ息^{そく}金^{きん}王^{わう}殿^{でん}と^と羽^う黒^{くろ}小^こと無^む雙^{さう}女^{にょ}人^{にん}少^{せう}く^のい^とと^と衆^{しゆ}
徒^と亦^{また}南^{なん}儀^ぎと^と扱^{さく}と判^{はん}官^{くわん}殿^{でん}小^ことあ^あと^と判^{はん}官^{くわん}主^{しゆ}従^{じゆ}か^かと^と争^{そう}
斯^す羽^う黒^{くろ}乃^{すなは}妻^{さい}小^こ委^い一^{いつ}く^の彼^{かの}荒^あ纒^ま岐^ぎハ^ハ究^{きゆう}く^の心^{しん}荒^あく^の死^し人^{にん}カ^カキ^キ強^{きやう}
推^お問^{もん}後^ご日^{にち}小^こ崇^{すう}成^{じやう}受^{じゆ}如^{ごと}何^{なに}カ^カ珠^{しゆ}妻^{さい}小^こ及^{およ}し^も量^{りやう}か^か。将^{しやう}金^{きん}王^{わう}殿^{でん}
と羽^う黒^{くろ}小^こ名^な譽^よ乃^{すなは}美^み女^{にょ}年^{ねん}カ^カ。先^{まづ}坊^{ぼう}、緒^{いと}、真^{まこと}貌^{ぼう}小^こあ^あと^とむ^むと^とも

面^{おもて}さ^さり^り成^なん^んと^とのい^いれ^れを^を衆^{しゆ}然^{ぜん}と^と同^{どう}意^い一人^{ひとり}の僧^{そう}年^{ねん}慶^{けい}小^こ向^{むか}
美^みハ判^{はん}官^{くわん}殿^{でん}カ^カり^りし思^し押^お寄^ぎい^いと^と疑^ぎカ^カ客^{きやく}僧^{そう}達^{たつ}殊^{しゆ}小^こ名^な高^{たか}き^き金^{きん}
王^{わう}殿^{でん}も御^ご渡^{わた}と^と斯^す子^こ便^{べん}宜^い小^こ御^ご王^{わう}蓋^{がい}成^{じやう}も賜^{たま}り^りと^と先^{まづ}客^{きやく}殿^{でん}へ
御^ご入^い有^ある緩^{ゆる}く休^{やす}足^{あし}し^しと^と女^に慶^{けい}答^たる。衆^{しゆ}人^{にん}坊^{ぼう}胸^{むね}鎮^{しん}
り。辞^{ことば}退^ひせ^せと却^{かへ}く悪^{あく}く^のと^と女^に慶^{けい}答^たる。中^{ちゆう}御^ご芳^{ほう}志^し辱^{じやく}ハ^ハ風^{ふう}雨^うも強^{きやう}
い^いと^と皆^{みな}時^{とき}赦^{しや}免^{めん}小^こ預^よい^いと^と十^{じゆ}余^よ人^{にん}小^こ佐^さと月^{げつ}結^{けつ}。頓^{とん}く長^{ちやう}吏^し乃^{すなは}坊^{ぼう}
へ^へと^と伴^{ばん}ま^まる。衆^{しゆ}徒^と亦^{また}酒^{しゆ}香^{かう}成^{じやう}鋪^ぽと^と携^{たづ}出^で余^よ寒^{さむ}成^{じやう}凌^{りやう}氷^{ひやう}と^と小^こ
野^の酒^{しゆ}一^{いつ}盃^{はい}傾^{かたむ}くと^と勸^{すす}ま^まる。女^に慶^{けい}答^たる。曰^い御^ご厚^{こう}情^{じやう}萬^{まん}謝^{しゃ}小^こ不^た堪^たい^い
ども我^{われ}徒^とと道^{みち}中^{ちゆう}上^{じやう}下^げ乃^{すなは}間^ま宗^{そう}昔^{せき}乃^{すなは}旋^{まわ}り^り固^{かた}く断^た酒^{しゆ}仕^しま^まる。一^{いつ}滴^{てつ}も
不^た付^つい^い願^{ねん}と^と此^{こゝ}義^ぎ御^ご免^{めん}有^ある一^{いつ}飯^{はん}の齋^{さい}小^こ預^より^りと^とい^いと^と小^こと^と衆^{しゆ}徒^と亦^{また}
本^{ほん}意^い成^{じやう}失^しい^い扱^{さく}く物^{もの}固^{かた}く客^{きやく}僧^{そう}達^{たつ}と^と過^あま^まる。と^と中^{ちゆう}小^こと^と曲^{まが}
く一^{いつ}盃^{はい}成^{じやう}傾^{かたむ}くと^と金^{きん}王^{わう}殿^{でん}乃^{すなは}御^ご土^ど蓋^{がい}成^{じやう}賜^{たま}り^りと^と若^{ごと}大^{だい}衆^{しゆ}と^と何^{なに}候^{こう}仕^しり

も飲く聴をやとぞ思ふは是や修羅道の罪人が極樂浄土小生成
 得く歌舞の善産の音楽を聴小異あらずと大衆も大い入奥己
 が日志と酒酌く。余念を忘る笑樂を程かく管絃も畢くハ
 長吏より饗膳を調へ進せぬ判官主従世小在し時ハ玉成炊た桂
 枝焚く同小ども觸むぬ魚食あれども今流落乃身とたり食小
 飽り不更もなれを昔の珍膳美菓よりも尚申トく。十分是を喫し
 玉ハ昔時睡眠しり小程なく其夜も明らるるハ辨慶衆人成起
 一曉り勤行成たり。朝饗此小遇く長吏小別成告く立出れハ
 初と恐敵たり。衆徒も余波中り。まご消残雪踐分く三町釘
 見送進せたり

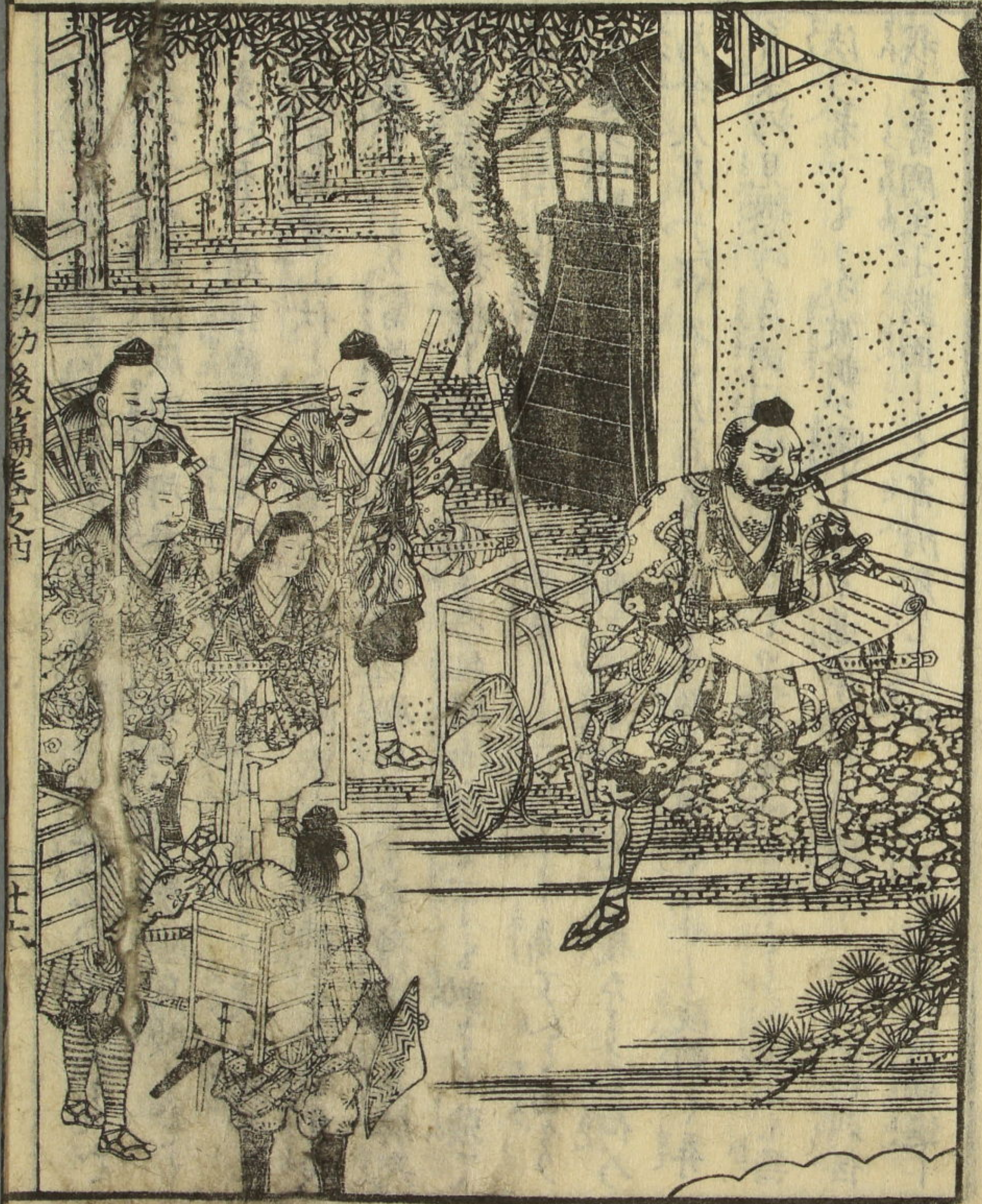
辨慶安宅續勸進帖條

判官主従と危るる平泉寺成難なく立く足成逸免昔生乃官

成も余所小方一金津成さく急だの噫呼其路次乃艱苦幾何
 とや或時と峩々々嶺成攀く松が根枕小夢成あは或時と洧
 くく小溪と渡り。虎狼乃卧所小袖成片敷郊野小行腸く土
 民乃歩成羨間道小飢疲く村翁乃袖小抱くを痛り然小金
 津の方より。唐櫃敷多擔せ馬上勇く。武士百人行の同勢成引
 具一乘菟ぬ是と何ある人ぞと喜三太成以く同せの小加賀國乃
 任人井上左衛門殿判官成吟味乃為越前國三乃口の因所へ赴り
 たりと答ふ扱を見智らさく不抗と判官を笠深くと被さ
 郎堂乃中小紛を逸足小行過んとしゆハ折節風強く吹き判
 官此笠成吹上り急小被整んと不思仰向り小井上が馬上より
 直下し月時少く。互小面成見合り井上大ノ小孩を急な馬より能
 下り噫尊の客僧達や途中あらずんが急行の布施成もハ鹿葉

の舟我も進するは小宿所遠々力不及台金兩部乃法我修
 一列位小馬上ハ倅あり疾く行過り馬小引添尊敬く見送
 るハ判官主従も夢路我躡心地一何ろ各もせむと逸足小行過
 るハ井上遙小見送り左右我顧唯今の客僧達我維しうあ彼社
 木曾平家の大敵我一戦小攻亡しふひ一伊豫守殿よ世か世小在
 在假初の御通行小も灑掃ハ警固よと道路の強動大既たうざ
 我小罪ハ御身我絶者乃為小世我挟られし我ホハたの者小
 小惡憚り過り痛りさよ奉封を莫大の檢賞も預留りたが
 余り痛りさ小見道一進せりと落洞と俱小結たれを郎堂下部
 是我安天暗此人を武勇も慈愍も備へ武士よと感一合あり
 判官主従と鏝の口我遁まし心地一其月藤原小宿一のひ型
 を亦草鞋履締り根揚り松小うま。白山権現我遙拜しうひ

安宅も迫くたり々々処小先小立り行し鬼三太色我妻どく弛
 飯り大息吐く。安宅小も関我居る富樫左衛門尉是我守り嚴く
 山伏我吟味仕いり小。関門小山伏三人乃首我斬り鼻ハと言上
 才判官歎息しりハ斯行前每小関所有上と進も奥州迄と通り
 不可得所詮言甲斐を死者の手小掛んりハ契く自害せんし。既
 小刀小手我掛りハ我伊勢三郎急小制。是と如何た我脚更どや
 果ホ隨遂仕り上と関所乃三個所五個所蹴破り通りハ之更何乃
 難更うりハ先く短慮我出りりハ。如何面く何乃為小持りハ大刀
 腰巻ど君乃御大事今此時たる身我固く一齋小進り踐破り通上
 若不抗を多年武思乃為小斬死せよと呼まを是こそ望しとらよ
 と。既小用意し及んしと。弁慶大の小練。是ハ物小狂る。是迫緒所の
 危難我避かざる富岡一個所通りハ無謀の戦我好と思慮不足也



功効後篇卷之四

十五



辨慶
安宅
勸進
續
圖

真功後篇卷之四

十五

不法の段奇姪なり扣ひし叱付。扱女慶小向ひ。頃日九郎判官の
山伏比鉢小身成紛装し。奥へ御下向者し。あまた。當所少く
も山伏達成擇ひ小し。兵卒とも狼藉小及。罪八某小免し。さへ
とも御坊の御名と何し。中とし。同女慶答く。愚僧と。續岐阿闍梨
し。中者なり。伯叔ゆくい。美作阿闍梨と。東山道成信濃へ下り。愚
僧と。北陸道成勸進し。兵卒の無礼と。智小不足。御内。勸進
如何。御附い。と。中。富控。點頭如何。も。名帖小附い。之。定。勸進
帖のい。願。と。聽。聞。仕。ら。た。や。と。望。多。れ。辨。慶。是。小。當。惑。し。た。か
ら。願。智。成。廻。し。笈。の。裡。より。往。來。の。卷。物。取。出。し。高。声。小。と。續。上。々。か
夫。情。惟。む。大。思。教。主。の。秋。比。月。と。深。槃。の。雲。小。隱。ま。生。死
長。夜。の。永。た。夢。成。驚。す。ゆ。死。人。も。た。り。茲。小。中。頃。の。聖。至
聖。武。皇。帝。と。中。奉。ハ。最。愛。の。后。官。小。死。別。少。ひ。追。慕。の。情

止ぐく。涕。泣。乃。御。涙。乾。く。期。た。り。故。小。上。求。善。提。乃。く。た
廬。遮。那。佛。成。建。立。し。む。然。小。去。時。壽。永。の。頃。兵。火。比。為。小
燒。亡。し。畢。ぬ。斯。程。の。靈。場。絶。し。妻。成。歎。れ。俊。乘。坊。澄。源。緒
國。成。勸。進。と。一。帝。子。錢。と。魚。奉。賤。の。輩。と。現。世。あ。く。と。無
比。乃。衆。成。極。當。來。あ。く。と。九。品。蓮。臺。乃。上。小。坐。せ。し。飯。命
誓。首。敬。白

と。心。小。浮。伶。小。女。成。奮。く。續。上。々。ハ。富。控。大。小。感。聽。し。微。女。小。以。共
勸。進。小。附。い。乙。と。く。上。品。乃。加。賀。納。五。十。疋。内。室。の。方。より。罪。業。消
滅。乃。為。し。と。白。袴。一。腰。八。花。形。鑄。し。鏡。二。面。其。外。家。隸。即。堂。女。房。婢。女
小。の。る。近。寄。附。物。成。か。り。金。五。名。帖。小。附。者。百。五。余。人。小。で。及。ひ。る
知。慶。大。小。悅。び。面。々。の。志。現。當。二。世。安。樂。何。乃。疑。う。有。し。扱。我。徒。ハ。尚
近。國。成。勸。進。し。来。月。中。旬。小。と。上。り。い。し。む。れ。む。倍。高。成。物。と。其。道

預り玉よりいへし、荷小成さぬ物女取判官小向ひ如何大
 和坊是持、渡。富控小暇成昔二人三人宛徐いと通り
 中。中小判官と通小引下、通五成兵卒の中小見知ぬ者有
 彼こそ判官殿小彷彿より改より程小前小も懲と群と
 立蒐る小と通り過ぬ。筆是成足。須波我君成異むる。一期の浮
 沉此時なりと勢ひ込引返さしとむる。成。辨慶急小月結、
 制し。人取返、眼成瞑し。此瘦剛力聊の荷成持徳、步行の
 遅き、疾行よと叱れむ。兵卒小辨慶小向ひ是と判官殿小似、
 是む此方より止り先達小も向ふ子細あり。停り、支るハ
 年慶益々腹成立南都成立、より以來動を判官より疑は、
 小く望く時日成移と吏幾何ぞ。偏小已う甲斐く、ぬ故也
 所詮緒國成巡し小足手纏の痴者寄附物と俱小来月逆預り、

噫腹立の剛力のやと金剛杖成追取く肩背の差別なく散く小打
 擲きむ。判官と大地小倒免し、と注謝、富控立、年慶
 成制し。先達先杖成止り、若者ホが、か死、僻同より。判官小
 もか人成狐疑むこそ斯折檻し、今、疑念暗ひ、疾く連く通
 むへし、小と。辨慶ハ能立むが嬉し、れど、さあ、ぬ、
 小大檀那の仰きむむむ。擊殺も弄し、の成、命、冥加小合、痴者
 とな、疾く歩よと強引、富控小札謝し、遂小関成通、
 將小惡虎の害成避、毒蛇乃難成免し、心地。衆人始く胸撫下、足
 成逸く路成急、野々市し、所なる、二万堂の敷、小立休、各息
 成、継小々。辨慶判官の御前小拜伏し。君の脚運表、せり、
 謀討し、か、年慶が杖小當せ、の、吏、の、悲、さ、よ、千、斤、成、も、揚、小、
 丸、某、が、腕、も、痺、あ、り、く、覚、い、し、畏、へ、く、悲、泣、し、れ、む。判官急小技起

今日本汝が智略中く凡慮乃可及所小あふと。偏小宗廟八睦
大言薩汝が手成借あふ。義経が危急成救ひのへいと覺る昔も
まの例あり。楚の公子宋成洛し時其異もと更成畏れ。微服し
歩卒乃荷成肩奴僕乃鉢あふ。関門成過しとせし小。門成守る兵是
成難捕んとす。公子乃僕策成上る公子成散く小擲。汝不刀小く
後ろか故人乃執疑成生せり努カトヤと匂し。守門乃兵疑念成
鮮難かく通せしとや。和漢古今備と有ども。城小千載一遇の忠貞
頃刺変化の智謀感むる小余あり。夫危成思く命成授身成殺く
仁成成之。臣下の職分義士の所好と兼尚安る余を。方し死全
成打く難成救更後代再不可有。彼文伯と母小撃身とく慈母乃力
乃表へし成悲く。今義経ハ汝が杖下小忠力の壯たる成悦しとぞ仰る
義経勳功圖會後編卷之四畢

